

啓成がくゆう会
第6回【人権講座】

と き: 令和7年 9月10日(水)
午後1時30分～午後3時
ところ: 啓成公民館 2階 集会室

共催:
米子市中央隣保館
啓成地区人権・同和教育推進協議会

「旅に唄あり、米子で生まれ育った岡本おさみさん」

岡本おさみさんを語る会 会長
講 師 長谷川 泰二 氏

〈講師さんから受講者みなさまへ〉

昭和の時代、米子が青春時代を迎えていた頃に岡本おさみさんは「米子市糺町」で生まれました。にぎやかな商店街、元気だった米子の町はどんな町だったのでしょうか。

私も岡本おさみさんと同じく啓成小・一中・東高を卒業して、あとを追うように東京に出ました。共通することがたくさんあります。人にやさしく、助けあって生きた米子の町が岡本おさみさんの心を育てたと思っています。そんな米子をご一緒に語りあえればありがたいです。よろしくお願いします。 長谷川 泰二 拝
(映像を使用する予定です)

〈講座内容〉

今年昭和100年を迎えます。戦後高度成長期の日本のフォークソングが生まれた背景に「日々の暮らしを唄う」大きな活力と影響力を与えた故・岡本おさみさん(米子市糺町出身)の歌詞力。森進一さんが歌われた大ヒット曲の「襟裳岬」の歌詞で「襟裳の春は何もない春です」のサビの部分は、襟裳に訪れた時に、大変寒く「何もないですがお茶でもいかがですか?」と民家に温かくもてなしされたことに感動して作詞したものといいます。旅をしながら生活を見つめ人間を見つめてきた岡本おさみさんの歌詞足跡から、人権について見つめてみましょう。